

KiKiの広場

2012年 3月 1日

cafe NO.17
KiKi



あの日からもうすぐ1年が経とうとしています。日本だけでなく世界中の人々の心が引き裂かれるような3月11日の出来事は、これからも決して忘れることはできません。被災された方や現場で作業されている方たちへ思いをよせながら、自分にできることを精一杯考え、日々を大切に過ごしていきたいと思います。

今 KiKi の中は、待ち遠しい春でいっぱいです。何種類もの水仙・ボケ・枝垂れ黄桜・紅梅・アネモネ・椿・ネコヤナギなどなど。いつものお花の K さんや竹馬の友の Y さんが、思いと一緒に届けてくださったものです。暖かく穏やかな春が、早く来るといいですね。

3月の予定	
13日(火)	休館日



「今月のケーキ」・・・「ミルクレーフ」 300円



幾重にも重ねたクレープ生地のあいだにクリームをはさみ、天面にナパージュを塗って仕上げた、定番人気のミルクレープです。



今月のお気に入り・・・「巣立ち・旅立ちの絵本」

～ 「こすずめのほうけん」「ラキとらいおん」「ぜつぼうの濁点」「たったひとつの」などなど ～



3月は卒園や卒業など、旅立ちや別れの月でもありますね。わが子が、赤ちゃんから子どもへ、子どもから青年へと、少しずつ自分の手から離れていくのを感じるのは、嬉しさと同時にたまらない寂しさがあります。大きな愛に見守られながら自分の足で一步踏み出す、そんな絵本を選んでみました。



「ぜつぼうの濁点」は、ひらがなの国で長年「ぜつぼう」に仕えた「濁点」が、主を絶望させていたのは自分の存在だと気づき、別れを告げて新しいひらがなの主を求めて旅にでるといってお話です。衝撃的な題名ですが、いろいろなひらがなから毛嫌いされながら行き着いたすてきな結末と、日本語っていいなと思える絵本です。「たったひとつの」は、5歳から高校まで宇宙で過ごした版画家江崎満さんの作品です。ずっと1人ぼっちで暗い穴の中にいたオオサンショウウオが、シアワセを求めいろいろな生き物に出会いながら、「或ることのすばらしさ」に気づくお話ですが、宇宙を感じるような美しい版画に引き込まれます。テーマは、「家を出る息子へ送ったメッセージ」だそうです。



今月の本棚・・・「シャーロット・ゾロトウの世界」

～ 「はるになったら」「うさぎさんてつだってほしいの」「まってね」「いまがたのしいもん」などなど ～



ニューヨーク郊外のハドソンの森の中で育ち、草木や花に囲まれた美しい自然の中で暮らしていたというシャーロット・ゾロトウ。優しさにあふれるゾロトウのお話の中に出てくる子どもたちは、ちょっと(?)昔の自分です。ささいなことや小さな自然に心ときめかしていた、懐かしくてちょっぴり切ない・・・そんな思いがよみがえってきます。「まってね」「いまがたのしいもん」は、お母さんにはたまらない本ではないでしょうか? 「生まれてきてくれてありがとう。」と、どんなに大きくなったわが子でも思わず抱きしめたくくなります。



ほっとフレイク

将棋ボーイ再び・・・6年生の将棋ボーイ H さんと T くんが、2人そろってきました。「中学生になったら将棋教室もう来ないの?」と聞くと、「いや、来るでしょ。」と同時に答えた2人。「でも部活とかあるでしょ?」と言うと、「いやあ、あっても来れる時は来ますよ。」と H くん。T くんが「将棋はやめんと思う。」と言うと、H くんが「いや、将棋はやめるとかやめんとか、そういう問題じゃないやろ。ずっとやるもんやろ」と。指導をされている先生方にお話を聞くと、子どもたち一人ひとりに対する思いや願いをすごく感じます。ただ、この先ずっと続ける人もいれば、しばらくお休みする人、大人になってまた将棋の勉強が楽しくなる人、将棋との関わり方は人それぞれだと。いいですね。こんなに早くから、ずっとやりたいと思えるものに出会えるなんて。

